

令和4年9月30日

横手市議会議長 寿松木 孝 様

出席議員代表
厚生常任委員長 土田 百合子

『市民と議会の懇談会』 報告書

「市民と議会の懇談会」の実施状況を下記のとおり報告いたします。

1. 開催日時	令和4年8月25日（木）午前10時～11時20分
2. 開催場所	横手市役所本庁舎 5階 第1委員会室
3. 出席議員	土田百合子委員長、山形健二副委員長、柴田忍委員、宮川拓也委員、林一輝委員、立身万千子委員、青山豊委員、佐藤忠久委員、井上忠征議員、加藤雄太議員、福田誠議員、菅原正志議員
4. 申請団体	社会福祉法人 横手市社会福祉協議会
5. 参加人数	18人
6. テーマ	「地域福祉事業（活動）の現状と課題について」
7. 懇談会の内容	司会：厚生常任委員長 土田 百合子 ① 趣旨説明 広報広聴委員会広聴分科会副分科会長 ② 厚生常任委員長あいさつ、議員紹介 ③ 横手市社会福祉協議会代表あいさつ ④ 意見交換 ・横手市社会福祉協議会の事業説明、報告等 ・説明を踏まえた質疑応答、意見交換 ⑤ 閉会あいさつ 厚生常任副委員長

8. 意見交換等の主な内容

【社会福祉法人 横手市社会福祉協議会】

■横手市社会福祉協議会の事業説明、報告等について

○基本理念、組織図、主な取り組み内容について説明

- ・いきいきサロンや福祉教育活動推進事業として、これからの福祉を担う子どもたちへの理解を深める事業などを実施。
- ・ボランティアセンターの立ち上げから災害対応の状況について報告。

○横手市における地域福祉の推進について説明

- ・小地域ネットワーク活動の仕組みや状況（課題など）について事例を交えて説明。
- ・小ネットワーク会議などで、「住民支え合いマップ」の作成を推進し、地域の避難支援体制づくりのほか、避難訓練等を行って体制の強化を図っている。
- ・小地域ネットワーク活動を進めるにあたり、①個人情報の取扱い、②担い手の確保、③ネットワーク活動に対する理解不足、④対象者増加などの課題がある。

■主な質疑や意見

- ・小地域ネットワーク活動の担い手を確保していく上での今後の方向性はどうか。
⇒地域の子どもたちへの福祉体験の講話や除雪ボランティアへの参加などを通じて、福祉教育の充実を図り、担い手確保につなげていきたい。
- ・小地域ネットワーク活動を推進するにあたり、民生委員、福祉協力員のみではなく市職員や警察署などの行政機関とよく連携して活動を進めて欲しい。
- ・担い手の確保については、地域の子ども会や青年会の会長などをピンポイントで声掛けをしていくことも必要だと思う。
- ・自主防災組織により、先進的に活動されている地域もある。避難支援体制の整備については、こういった組織と一緒に活動を進めていけば良いのではないか。
⇒既に一緒に活動されている地域もある。自主防災組織や共助組織を中心に活動していく必要がある。
- ・新興住宅地などでの共助組織などの構築のサポート体制はどのようになっているのか。
⇒県南 NPO センターと連携し、除雪時の保険負担などの活動に対する支援をしている。新興住宅地などは社会福祉協議会へ声が届きにくく、いかにしてアンテナを張っていくかが検討課題となっている。
- ・子ども食堂に関し、社会福祉協議会のサポート状況はどのようになっているのか。
⇒現在、あさひこども食堂と連携し、生活困窮者対策をしている。立ち上げの声が挙がった場合には地域に出向き、実際に活動されている方などを呼んで説明会を行っている。十文字地域で、子ども食堂を立ち上げる会議を開催する予定である。

9. 出席議員所感

《土田百合子 厚生常任委員長》

常任委員会としては2回目の懇談会であり、最初は皆さん緊張していたが、社協さんの日頃の活動内容をお聞きし、地域住民の福祉活動に尽力いただいていることに心から感謝したい。社協さんが、今もっとも力を入れている「小地域ネットワーク活動」の説明を受けて、このような情報の共有が何よりも重要と感じた次第である。益々高齢化が進み、介護やひきこもり不登校といった悩みを抱えている家族は増加していると感じている。「小地域ネットワーク活動」の課題も多く大変であると思うが、地域課題の支援体制の構築に向けて取り組んでいただきたいと感じた。

《山形健二 厚生常任副委員長》

コロナ禍の集まり辛い中でも小地域ネットワーク会議を103回も行っており、地域課題や市民の要望を現場でたくさん聞いてきている社協さんとの懇談会は大変貴重な時間であった。限られた時間の中で、質問を遠慮した議員もおり、是非、またの開催をお願いしたい。社協さんの事情もあるかとは思いますが年に数回と意見交換する機会があればと思う。

《柴田忍 厚生常任委員》

先日のお話から、必要とされている支援の在り方とはどのようなものなのか考えさせられた。対象者の方々との関わり方を再考してみる必要もあるのではないかと。

《林一輝 厚生常任委員》

小地域ネットワーク活動についてお話いただいたが、現在、そして今後の地域づくりにおいて必然となる活動であると感じた。課題としても挙げられていたが、世帯の在り方や生活課題は多様化しており、如何にしてこの活動を地域で進めていけるかが今後の横手市において重要であると思う。

担い手の確保として、若い方に参加してもらおうようボランティア講座を夜間や休日、趣味を活かした形での開催を検討するというお話があった。しかし、この活動の事例が公にしにくい等の理由から、活動を広く周知する事が難しいというお話もいただいた。こういった活動が市民の方々に周知されていない事から、市民、特に仕事や子育て等で忙しい若い方達には「横手市においてボランティア等の担い手が不足しており、それが重要な問題である」という認識がないのではないかと。そういった状況で講座を開催しても、担い手が増加するとは思えない。出席議員よりお話があったが、地域で担い手になってくれそうな若い方に直接お声掛けするような形の方が、確実に担い手を確保出来るのではないかと感じた。

また、課題の中でも、個人情報取り扱いや共有が大きな課題の一つであると感じたが、これについては今後前向きに協議するというお話があり、この課題が解決する事で活動自体が大きく前進する事に期待している。

《立身万千子 厚生常任委員》

社協さんが実施されている膨大な！活動を大変わかりやすい概要版にして説明していただいた。特に今回は、数ある取り組みの中でも「地域福祉事業」に絞って話し合いが進められた。

課題は「担い手の確保と継承」、「市内に数カ所立ち上がっている自主協働組織を拡充するサポート」などが挙げられた。その中でも学校への福祉教育を重点にし、“やってあげる”という上から目線ではなく障害のある人も高齢者も対等平等の立場で支え合うインクルーシブの精神を子ども時代から養うことの大切さを共有していきたいということが印象的だった。

人口減少の横手市でも世帯数は減らず新興住宅が増えている。「雪」と「交通」がメインの課題だが、個人情報壁を乗り越える必要がある事例が多く、解決には町内会など集落の小ネットワーク（まさに網の目）が必須であり、社協・農業団体・商工団体・行政等の連携を綿密にしていくことが「肝」と痛感した。今回は議員の質問が矢継ぎ早でなかなか意見の「交換」にならなかったかな？と反省し、今後数回に渡って懇談したいと感じた。

《青山豊 厚生常任委員》

「オール横手」による小地域ネットワーク活動の取組を紹介いただき、市内各地域で機能すれば大きな力になると感じた。

一方で、担い手の確保など様々な課題も挙げられた。少子高齢化、人口減少の中でどの組織にも当てはまる課題だが、組織と組織が力を合わせ、知恵を絞ること。それに行政が後押しをすることの重要性を改めて認識した。

限られた時間だったので、また社協さんといろいろなテーマで意見交換したい。

《井上忠征 議員》

今日は、社協の活動状況を聞かせていただき、ありがとうございました。種々の活動をされていること、また、個人情報保護の件や地域の力が薄れていること等が、現場の方の声で良く理解した。

高齢者の増加、担い手不足、他者への無関心等の問題には、地域の基本団体である町内会や集落組織の充実を少しでも図ることが必要でないかと思われたところである。

《加藤雄太 議員》

時代の移り変わりと共に、周辺地域や住民との関係性も大きく変わっている中で、今回お話しにあった「小地域ネットワーク」の重要性はより一層高まっているのだと思う。

担い手不足が叫ばれる中、いかにその可能性のある人材を発掘・確保していくかが、小地域ネットワークや共助組織の継続・発展に向けた鍵になると感じた。

危機意識をもっている若い方がいても、実際に行動に移す困難さや怖さを抱えているケースも見聞きするので、どうにかその芽を潰してしまう事の無い様、官民一体となって協力体制を整えていかなければならないと考える。今後も引き続き意見交換や協議の場をもてると

幸いだ。

《菅原正志 議員》

地域福祉の担い手である社会福祉協議会との意見交換会。第一歩を踏み出したことに意義がある。今後も引き続き意見交換や協議を重ねるべきであると思った。

10. 懇談会の様子



